

# きょうハレの日、

記念式典 出演者等のご紹介

令和5年、文化庁の京都移転が実現しました。  
文化庁の取組を紹介する動画はこちらから→



## オープニング 祝舞



観世流能楽師シテ方

かた やま く ろう え もん

### 片山 九郎右衛門

観世流能楽師シテ方。1964年片山幽雪（九世片山九郎右衛門・人間国宝）の長男として京都に生まれる。姉は五世家元井上八千代（人間国宝）。父及び八世観世鏡之丞に師事。片山定期能楽会を主宰。全国各地で多数の公演に出演する他、ヨーロッパ、アメリカでの海外公演にも積極的に参加。また、学校へ出向いての能楽教室の開催、「能の絵本」の制作、能舞台のCG化など、若年層のための能楽の普及活動も手掛ける。2011年に十世片山九郎右衛門を襲名。重要無形文化財（総合指定）保持者。京都府文化賞奨励賞、京都市芸術新人賞、文化庁芸術祭新人賞、日本伝統文化振興財団賞、京都府文化賞功労賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞、観世寿夫記念法政大学能楽賞を受賞。公益社団法人京都観世会会長、公益財団法人片山家能楽・京舞保存財団理事長。

祝舞「羽衣」について

「羽衣」はたいへん有名な能の曲として知られています。「羽衣伝説」は日本の各地に存在し、ヨーロッパでは「白鳥伝説」として各地に伝わっています。伝説では、漁師が羽衣を返さないのだからとそ地に留まり、隙をねらって羽衣を取り返し天に戻るのですが、能での「羽衣」は漁師が天女を哀れんで、自ら羽衣を返し与えるといった格調の高いものになっています。天女が彩る美しいファンタジーをお楽しみください。

## 記念演奏



ピアノ・作詞・作曲・アレンジ

### 都倉 俊一

東京都出身。学習院大学在学中に作曲家としてデビュー、70年代からヒットメーカーとして、日本レコード大賞作曲賞をはじめ数多くの賞を受賞する。世に出したヒット曲数は1,100曲を超え、レコード売上枚数は6千万枚を超える。その他多くの映画音楽、テレビ音楽を手掛ける。2010年には日本音楽著作権協会会長、2011年文化庁文化審議会正委員に就任、2016年アジア・太平洋音楽創作者連盟執行委員会会長を務める。2018年に文化功労者に選出され、2021年4月文化庁長官に就任、現在に至る。

指揮 津幡 泰子  
合唱 秋山 隆太郎

京響コーラス合唱指導者／京都市立京都堀川音楽高等学校 主幹教諭

京都市立京都堀川音楽高等学校 音楽科 声楽専攻1年

京響コーラス

1995年、当時の京響常任指揮者&音楽監督・井上道義の提唱で「京響第九合唱団」として結成。その後「京響市民合唱団」と改名し、2012年からさらに音楽的な高みをめざして「京響コーラス」と名称を変更、創立者の井上道義を創立カベルマイスター、当時の京響常任指揮者広上淳一をスーパーヴァイザーに迎え、京響の自主演奏会を軸にオーケストラ合唱作品に取り組んでいる。

[合唱指導：小玉洋子、津幡泰子、小林峻／練習ピアノ：小林千恵、辻本圭]



びわ湖ホール声楽アンサンブル

全国から厳しいオーディションを経て選ばれた日本初の公共ホール専属声楽家集団。「アンサンブル」とは、ドイツ語圏の歌劇場においてオペラのソリストを担う劇場専属歌手を意味する。びわ湖ホール独自の創造活動の核として自主公演への出演を主な活動とし、オペラ公演や定期公演のほか、音楽の普及活動にも積極的に取り組んでいる。2013年第26回大津市文化賞、2017年第42回滋賀県文化賞受賞。



### 司会 木佐 彩子

青山学院大学卒業。1994年にフジTVに入社。「プロ野球ニュース」「FNNスーパーニュース」「めざましテレビ」等多数の番組を担当。2002年～06年まで、夫（元ヤクルトスワローズ石井一久氏）のメジャーリーグ移籍に伴い再び渡米。2006年に帰国し本格的にフリーアナウンサーとして復帰、現在に至る。

本式典の壇上花は、京都いけばな協会に御協力をいただいております。  
制作 京都いけばな協会 会長 松本 司（京都末生流）  
9月9日（土）は、シアター東側のロームスクエアに、京都いけばな協会の先生方によるいけばな作品を展示しておりますので、ぜひご鑑賞ください。